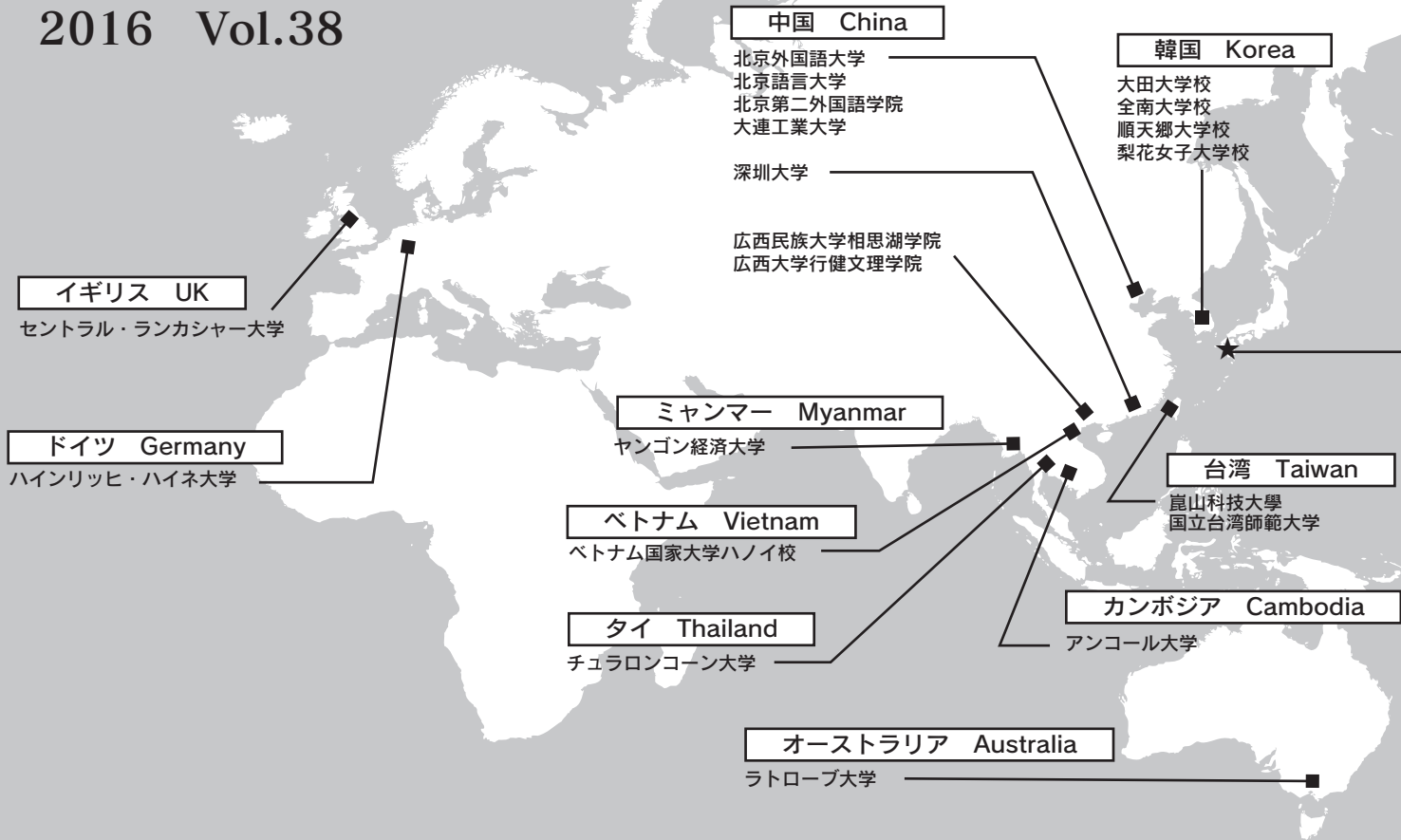


# 国際交流シター

2016 Vol.38

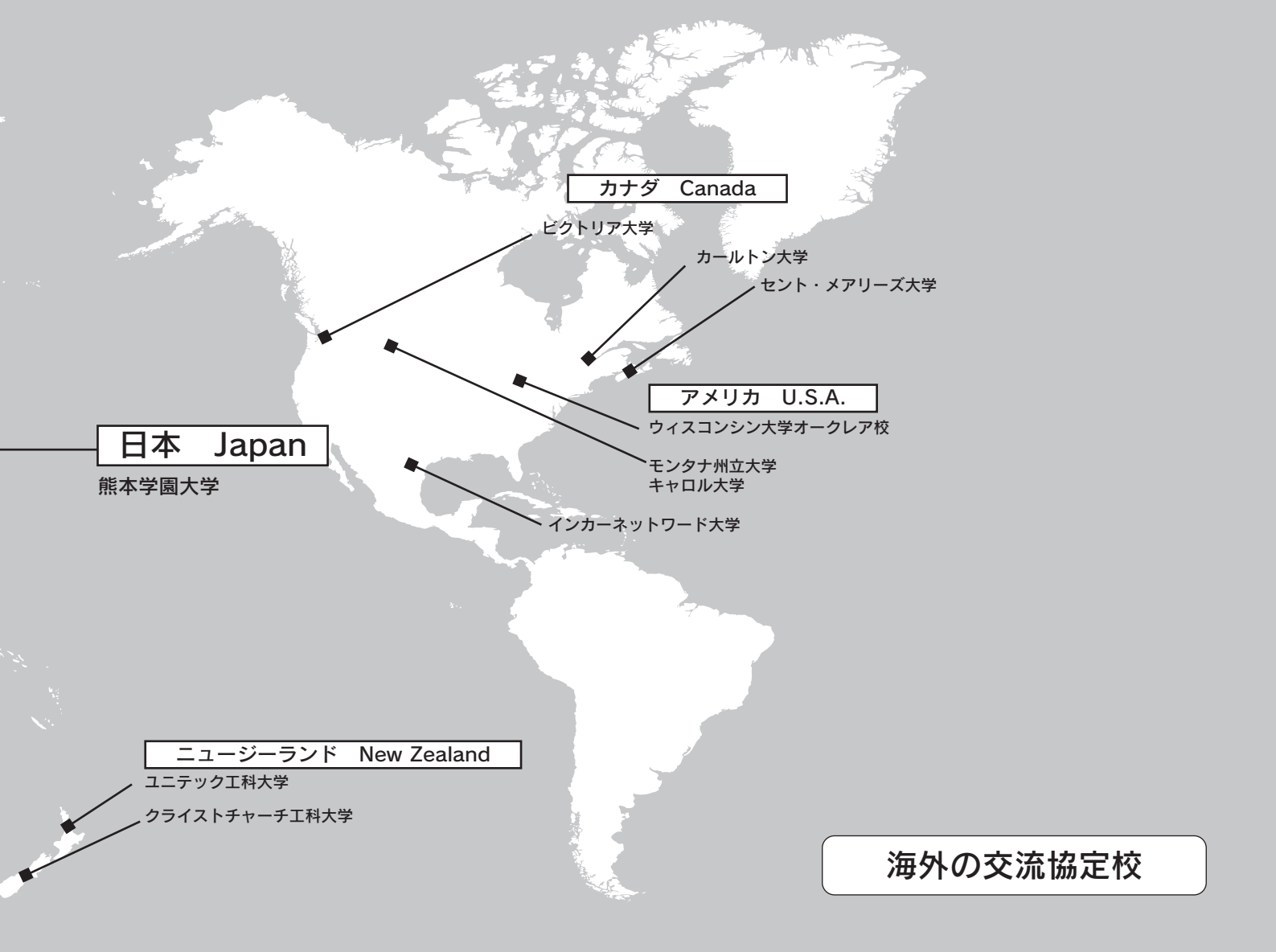


*International  
Exchange  
Letter*



## 目次

<b>巻頭言</b>	国際交流委員長    カーク・マステン	<b>2</b>
<b>TOPICS</b>	新協定校紹介 大連工業大学 (中国) 第26回外国人留学生弁論大会 JENESYS2015 在韓公館選抜事業で大学生訪問団が来学 韓国・大田大学校から防災研修のため教職員と学生研修団が来学 JENESYS2016 ニュージーランドから学生訪問団が来学 トビタテ！留学 JAPAN 体験談 井手 華妃 (国際経済学科 4年) トビタテ！留学 JAPAN 体験談 武田 聡 (国際経済学科 5年)	<b>3</b>
<b>交換教員</b>	李 義 澤 (韓国・大田大学校)	<b>7</b>
<b>クマガクで学んだこと、熊本で学んだこと</b>	Duffy Liam (国際経済学科 4年)                      Johnson Dyonne (英米学科 3年) Phillips Kensey (国際経済学科 4年)                  Sapiano Julian(ホセ・列ティ・マゼメト学科 3年) Nguyen Bao Ly (ホセ・列ティ・マゼメト学科 3年)      莊 亞 霓 (国際経済学科 4年) 金 東 周 (東アジア学科 4年)                              金 钊 (東アジア学科 2年)	<b>8</b>
<b>私の挑戦～留学を通して学んだこと～</b>	三浦 康平 (英米学科 4年)                              上村 望歌 (英米学科 4年) 島 一実 (東アジア学科 5年)                              後藤 千晶 (国際経済学科 4年)	<b>12</b>



**私の挑戦～留学を通して学んだこと～**

14

井戸川 茜 (東アジア学科 5年)

坂本 智子 (東アジア学科 4年)

山城 結花 (英米学科 4年)

**留学生と暮らして**

15

田辺 実咲 (東アジア学科 4年)

**REPORT**

16

UNGL リーダーシップ・チャレンジ in サイパン

沼田 康佑 (経済学科 3年)

UNGL リーダーシップ・チャレンジ in 韓国

岡村 栞里 (東アジア学科 1年)

櫻井 美紅 (東アジア学科 1年)

**DATA**

17

平成 28 (2016) 年 海外往来

平成 28 (2016) 年度 研修団往来

海外への派遣学生数

平成 28 (2016) 年度 出身国・地域別外国人留学生数

**PHOTO GALLERY**

20

**DATA**

22

平成 28 (2016) 年度 主な留学生参加行事



## 「グローバル人材」とは

国際交流委員長   カーク・マステン

今年の4月に、熊本は未曾有の災害に遭遇しました。本学の学生1名を含め、多くの方々が亡くなり、地元の経済にも大きな打撃を与えました。風評被害等により留学生が来なくなるのではないかと心配もありますが、今回の地震は国際交流の可能性について大切な教訓を残してくれたと考えます。

その一つは、国際交流における人間関係に関するものです。外国人や留学生の受け入れについて考える際、外国人は「客」、日本人はおもてなしをする側の「亭主／ホスト」という役割分担が想定されるでしょう。渡日直後は特に外国人がお世話になることは間違いありませんし、一旦地震等が起きると、外国人は得てして「災害弱者」となり、受け入れ側への依存度が高まります。

しかし、皮肉なことに、災害がそうした立場の逆転につながることもあります。本学（熊本学園大学）では、留学生が14号館に避難していた地域住民などの炊き出し等のボランティアをしました。熊本大学では、留学生が自ら進んで語学教室やヨガ教室などを開催しました。また、私自身はボランティア活動としてFacebook上で外国人向けの情報発信をしましたが、外国人からは「助けてください」というような要望よりも、「ボランティアとして働きたいけれど、何ができますか？」や「寄付したいが、やり方がわからない」などのような問い合わせが多かったことに驚かされました。こうして「お客さん」として受け入れた留学生などは地域社会に貢献する社会の一員になる場合があります。

二つ目の教訓は共に困難に立ち向かう価値に関するものです。地震を体験したことのない人にとって、ある程度の揺れは多少「面白い」と感じられ

ることもありますが、恐怖を感じるほどの大きな災害を好む人はいません。それでも、被災体験について語る多くの留学生からは異口同音に「熊本がもっと好きになった」とか「人間はすばらしい」などの声が聞かれました。何故でしょうか。ある留学生は、「なぜ私がこんな辛い目に合わないといけないのか」と考えていた時、周りの日本人は地震を自然の現象として受け入れ、状況を直視し復興に向けた活動をすぐに開始したことに感銘を受けたそうです。

さらに、周りの人との関係が深まったと述べた留学生もいました。国籍などを忘れ、周りにいた人間と一緒に困難に立ち向かって努力することにより、深い絆が生まれたのでしょうか。これは厳しい局面を生き抜いた戦友の絆が一生続くのと似ているかもしれません。地震そのものは不幸な出来事ですが、その不幸な出来事を通してより深い異文化交流ができた留学生は、案外幸運だったのではないかとさえ思います。

最後に、熊本地震は留学のリスクと価値の関係をどう評価すべきかに関する教訓を残してくれたと思います。言葉や習慣の異なる国に出かけると、何らかのトラブルに巻き込まれる危険性が高まることは否めません。安全性のみを考慮するなら、留学を断念することになるでしょう。しかし、多少のリスクが伴うことを理解した上で、それでもあえて留学を選ぶのは、そのリスクよりも得られるものの方を重視するからだだと思います。熊本地震を経験した留学生たちが、帰国に際して「来てよかった」と口をそろえて挨拶する姿を見て、改めて留学の価値の高さを痛感させられました。本学の学生にも留学のリスクばかりにとらわれずに、プラスの可能性を積極的に追い求めていただきたいと思います。



新協定校紹介 大連工業大学 (中国)

大連工業大学は、1958年「瀋陽軽工業学院」として瀋陽市で軽機械・食品・紡績など軽工業に必要な人材育成を目的として創設され、1970年大連市へ移転して「大連軽工業学院」となり、2007年に「大連工業大学」と改名されました。現在、工学、理学、芸術、文学、経営学、経済学を中心に、学士号、修士号、博士号を授与しています。教員数は約1,000名、内、教授と副教授が約400名。学生数は約20,000人。



2016年5月に交流協定を締結し、2017年秋学期には、大連工業大学から第1期生となる交換留学生を迎える予定です。

第26回外国人留学生弁論大会

毎年6月の恒例行事である外国人留学生弁論大会は、本学に在籍する外国人留学生が、彼らの日本語能力の向上を図ると共に日本人との相互理解を深めることを目的として開催されます。今年は熊本地震の影響から開催時期が1ヶ月遅れ、7月の開催となりました。6カ国8名の留学生が出場し、それぞれの思いを緊張しながらも練習を重ねた素晴らしい日本語で堂々と発表しました。会場には、学生、教職員及び地元の皆さんが詰めかけてくださり、留学生たちの発表に聞き入りました。

について独自の視点から発表しました。また、同じく優秀賞の韓国からの留学生、<sup>キムドンジュ</sup>金東周さんは「留学をしながらもらった宝物」とのタイトルで、留学を通して深まった友情と、自分自身の内面への理解について話しました。

最優秀賞に選ばれたのは、韓国からの交換留学生<sup>イムドンギョ</sup>林東規さんでした。<sup>イム</sup>林さんは日本語を好きになったきっかけや、その後のさらなる上達のためには「友達と話をすること」が最高の方法だったと述べました。優秀賞に輝いたオーストラリアからの留学生、<sup>サピアノ</sup>ジュリアンさんは、日本のコーヒー



<後方左から> 吉川勝正経済学部教授 (審査員)、イム ドンギョ、サピアノ ジュリアン、ダフィ リアム、カーク・マステン国際交流委員長、川田亮一商学部准教授 (審査員)  
<前方左から> キン ショウ、グエン バオ リー、フィリップス ケンスイー、ヴァーンケ アーノルド、キム ドンジュ

審査結果

最優秀賞	東アジア学科3年	<sup>イム</sup> 林 <sup>ドン</sup> 東 <sup>ギョ</sup> 規	(韓国) 私の日本語の勉強
優秀賞	東アジア学科4年	<sup>キム</sup> 金 <sup>ドン</sup> 東 <sup>ジュ</sup> 周	(韓国) 留学をしながらもらった宝物
	ホスト・タリテ・マネジメント学科3年	<sup>サピアノ</sup> ジュリアン Sapiano, Julian	(オーストラリア) 日本のコーヒー
敢闘賞	ホスト・タリテ・マネジメント学科3年	<sup>グエン</sup> バオ <sup>バオ</sup> リー Nguyen Bao Ly	(ベトナム) 熊本のスーパーヒーロー
	国際経済学科4年	<sup>フィリップス</sup> ケンスイー Phillips, Kensey	(カナダ) スーパーヒーローとは?
オーディエンス賞	ホスト・タリテ・マネジメント学科3年	<sup>グエン</sup> バオ <sup>バオ</sup> リー Nguyen Bao Ly	(ベトナム) 熊本のスーパーヒーロー



## JENESYS2015 在韓公館選抜事業で大学生訪問団が来学

1月19日(火)、日本政府の対日理解促進交流プログラム JENESYS2015 の一環で、在釜山日本国総領事館・在済州日本国総領事館が派遣する韓国青年訪問団(大学生団)34名が来学しました。

当日は、歓迎式や、歓迎昼食会、留学体験談のプレゼンテーション、キャンパス・ツアーのほか、「日韓大学生が考える文化交流の形」というテーマで、両国の学生によるグループ・ディスカッションを行い、相互理解と相互親睦を深めました。



## 韓国・大田大学から防災研修のため教職員と学生研修団が来学

8月25日(木)、韓国・大田大学から、国家安全防災に関する特性化事業団(団長:朴忠和副総長)の学生と教職員計48名が本学を訪れ、熊本地震後の復旧経過について講話や視察を通して研修を行いました。

今回の研修は、地震による熊本、特に本学の被害状況や復旧の様子を知り、教訓を得ることで、自国の安全・防災計画に生かすことを目的に、二大学間の交流協定に基づいて実施されました。

一行は本学での研修後、熊本日日新聞社新聞博物館の「熊本地震」に関する企画展示の見学や熊本城周辺の見学などを行い、防災に関してさらに見識を深めました。



## JENESYS2016 ニュージーランドから学生訪問団が来学

12月9日(金)、対日理解促進交流プログラム JENESYS2016 の一環で、防災・復興について学ぶため、ニュージーランドから大学生訪問団30名が来学しました。

午後だけのタイトな訪問スケジュールでしたが、宮北社会福祉学部長から熊本地震における本学の対応についての講演を聴き、その後、本学の学生たちによるボランティア活動紹介のあと、本学学生とのグループディスカッションを通して、熊本地震についての理解を深めると同時に、両国学生同士の相互理解が進みました。



## トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム

「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」は、2014 年からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度です。

派遣留学生は支援企業と共にグローバル人材コミュニティを形成し“産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材”へと育成されます。

日本代表プログラムには、現在、5つのコースがあり、本学では、平成 27 年度後期（第 3 期）の「地域人材コース」で採用された、経済学部の井手華妃さんと栗崎龍太郎君がそれぞれ台湾とシンガポールに、平成 28 年度後期（第 5 期）の「地域人材コース」で採用された、経済学部の武田聡君がベトナムに留学しました。

### 私の台湾留学

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム「地域人材コース」

経済学部国際経済学科 4 年 **井手 華妃**

【2015 年 9 月～2016 年 7 月 台湾・崑山科技大學へ交換留学】  
インターシップ先

山富旅遊 山富国際旅行社 2016 年 1 月 18 日～2 月 15 日  
熊本電気鉄道株式会社 2016 年 7 月 22 日～9 月 2 日

私は昨年 9 月から約 10 ヶ月間、台湾に留学していました。交換留学生として派遣が内定したあとに、「トビタテ留学 JAPAN」日本代表プログラムがあることを知り、留学中に中国語を活かす場を持ちたいという思いで応募を決めました。その際、興味を持っていた観光の分野で熊本県と台湾を繋ぎたい、双方の発展と友好関係促進に貢献したいと考え、留学中に台湾の観光の現場を勉強してきました。

現地では、派遣先の大学で中国語を学び、長期休暇を利用して台湾の高雄にある旅行会社でインターシップを行いました。インターシップ中に台湾の観光地や旅行会社の業務、日本旅行のニーズについて勉強できたのは勿論、大学生活の中でも、台湾人学生や外国人留学生の友人から日本のイメージや熊本県の認知度など、沢山生の声を聞くことができました。また、ボランティアとして台湾国内の旅行展に参加し、日本の観光や商品の PR 活動も経験しました。実践的な活動を経て、台湾や日本の良さを改めて知り、語学力も向上しました。台湾はとても親日的で、日本旅行や日本製品に対する関心が高い国です。休日に台湾の観光地を回りましたが、日本人と分かると知っている日本語を使い気さくに話しかけてくれる人が多かったです。留学初期は言葉の

壁や文化の壁に戸惑い辛い事もありましたが、日本語を学んでいる友人や日本に留学経験のある友人家族に助けられ、支えられて楽しい生活を送ることができました。

帰国後は、事後インターンシップという形で県内の企業で台湾人観光客のインバウンド業務に携わりました。業務の内容は、台湾の旅行会社向けに熊本の旅行商品や観光案内の提供、更に熊本空港で台湾からの団体旅客の迎え入れや見送りです。私は、インターンシップ中は主に、熊本の観光地や簡単な中国語会話資料の作成、旅行行程表作成を手伝いました。インバウンド活動の難しさや常に新しい旅行商品を提供する大変さを直に体験し、とても刺激になりました。

この様な濃い 1 年を経て、旅行に関する知識だけでなく、新しい出会いや発見を得ることができました。そして、実践の場で自分の成長も実感しました。自分がいかに多くの人に支えられ恵まれた環境で生きていたか、一人になって初めて知りました。トビタテは、《飛び込むこと》の大切さを教えてくれます。飛び込んだ先にある世界が、自身の未来の選択に繋がっています。私は、留学という人生の選択をして本当によかったし、まだ迷っている人にも、ぜひまずは一歩踏み出してほしいと思います。



台南の旅行展でボランティア活動



華語クラスの先生や留学生とのパーティー

## 幸せを見つける旅



トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム「地域人材コース」

『「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成事業』派遣留学生  
 経済学部国際経済学科 5年 **武田 聡**

【2016年9月～2017年1月 ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学へ留学】  
 インターシップ先  
 ニコニコ野菜ハノイ 2016年9月12日～2017年1月13日  
 内田農場及び紹介農家 2016年8月13日～2016年8月16日  
 九州ファクトリー及び派遣先農家 2017年1月25日～2017年2月14日

Alo Xin chao! はじめまして、こんにちは。私は「熊本農産物の販路拡大」という目的のもと約5ヶ月間ベトナムに留学している武田聡と申します。ベトナムで大学に通いながら日系企業でインターンシップをしています。活動内容としては、ベトナムにおける安全野菜の生産体制、マーケット、流通形態、ニーズの調査、販売補助や日系企業とベトナム企業のマッチングなどです。そもそも私は去年1年間ベトナムに住んでいて“ベトナム人は今すぐ空腹で死ぬか危険な野菜を食べながら死ぬかの2択なの”という衝撃的な言葉に出会い、この留学を希望しました。

留学が始まる前は“ベトナムでの留学の経験もあるし簡単だろう”とたかをくくっていましたが、いざインターンシップが始まると異国でのビジネスの難しさに悩みが尽きない日々を過ごしています。そんな日々のなか、ある日本人の農家さんが私にとある言葉をくれました。

“私は農産物を売っているんじゃないんだよ、その中にストーリーを込めてそのストーリーを売っているんだ”

この言葉は悩んでいる私の道標になってくれました。農産物に限らず今の時代は苦勞して良い物を作ることができてもすぐコピーができてしまう時代です。数値化、可視化し簡単に類似品を作る。それはアマチュアや大企業に関わらず誰もが、競争の世の中を作っているように思います。そんな競争社会の中で自分は何をするために生きているのか。何が自分を幸せにしてくれるのか。ベトナムでの忙しい生活の中で忘れてしまっていたが、“熊本農産物の販路拡大”の先に自分は本当は何がしたいのか、立ち止まろうとする度に今でもこの言葉が迷っている私を導いてくれます。

私は、今回のインターンシップ中にベトナム国内の色々な場所に行きました。そこで色々な民族の人たちと出会いました。ベトナムには50を超える少数民族がそれぞれの言語で暮らしています。彼らは中国、ラオス、タイ、カンボジアなどの国境を行き来し生活しています。彼らにとって国境はあつてないようなものです。そんな国ベトナムで国境や民族、文化を越えて私は留学期間の中で自分の幸せを見つける旅を続けようと思います。



有機農業で果物を作っている農家さんの農場にて



カフェで野菜を販売（筆者は左端）



## 二度目の熊本での生活

大田大学校 **李** **ウイ** **義** **テク** **澤**

【2016年3月～2017年2月 韓国・交換教員】

交換教員として姉妹大学の熊本学園大学に来たのが数日前の様に感じるが、もう帰国するまで3ヵ月となった。私は熊本学園大学に交換教員として来たのは初めてではない。16年前に続いて、今回が2回目である。

今回経験した中で最も辛かったことは、4月16日1時25分に発生したM7.3の熊本地震だった。熊本の方々にとって深刻な被害を受けた大きな震災で、地震は熊本とは関係のない場所（阪神・淡路大震災と東日本大震災）で起きるものだと考えていた私は、地震発生時の避難知識と常識を少しも持っていなかった。前震が来たときは財布だけ持って避難し、本震が来たときは就寝中だったが、マンションが崩壊するかもしれないと思い、財布とパスポートを持って近くの高校の体育館に避難した。毛布を準備していなかった私たちは、冷たい床で朝を迎えた。夜が明ける頃には、多くの避難者が集まり、非常に混雑していた。国際教育課職員の案内により、水とトイレが利用できる熊本学園大学国際交流会館に避難できたことは幸いであった。その後、コンビニに行ったが、既に飲み水と食べ物全てが売り切れている現実に直面し恐怖が大きくなった。大田大学校からの交換留学生については保護者の心配を考慮し、一時帰国するよう手配し、私も一緒に帰国した。しかし、残っている人々のことを思うと申し訳ない気持ちが大きかった。大きな災害の中でも、日本国民の秩序意識や人を思いやる市民意識、困難な状況をそのまま受け入れて順応する心構えや冷静さ、そして公的機関の迅速な対応などを直接見て感銘を受けた。

二度目の交換教員の生活で感じたことの一つは、両校の交流が、以前ほど活発ではなく、大学の雰囲気自体も活気がなくなっていたことである。学生研修団、その他研修団の交流、学術シンポジウム、そして大学関係者の往来など、交流が以前より少なく感じる。両校の学生数が著しく減少し、大学の財政が厳しくなっていることも一因と思う。熊本学園大学の学生数は、16年前に比べて25～30%減少し、韓国の大学もこの数年間で、5万人の入学定員を減らしており、2020年までに更に10万人を削減する必要があるという構造改革により、大田大学校も困難に直面している。両校がこの危機をうまく克服し発展の機会として捉え、地域における名門私立大学の地位を強固にし、両校の交流がますます活発になることを願っている。

今回の熊本生活は、スマートフォンのおかげで、非常に便利で快適に送ることができた。スマート

フォンで不足している日本語を補完することができ、インターネットバンキングをはじめ、インターネットを通じて、韓国のニュースや情報に接することができた。また、以前旅行で訪れた土地や思い出の場所に行くことができ、一緒に過ごした人との思い出を写真で共有することができた。また、SNSを利用し、お金をかけずに韓国や日本の友達と連絡を取り合うことができたので、以前よりも生活がスムーズであった。

IT技術の発達で昔と比べ生活が便利になったし、経験したことのない恐ろしい地震によって、大学の様子も一変したが、最も重要なことは、変わっていなかった。

正門に続く銀杏並木、大学のキャンパス、学生食堂、そして学生たちの様子は昔とほとんど変わらないように見える。出席チェックだけで授業を欠席する学生や、授業に出席はしているが、スマートフォンでLINEしたりする学生も見受けられたが、多くの学生は真面目に授業に参加していた。ごく一部の学生の逸脱した行動は、古今東西同じであるが、ほとんどの学生は、昔と変わらず情熱的で活気に溢れていた。

よく日本人に比べると、韓国人の方が情に厚いと聞く。しかし、今回の二度目の熊本生活の中で、前回感じられなかった日本人の情を感じた。現在在職している方々だけでなく、随分前に定年退職した教職員から韓国人とは違う濃い情を感じた。情の概念に違いはあるが、私は表面には出ない心の絆を感じたのだ。今後また再会できる教職員、再会が難しくなる方々もいるかもしれないが、いずれにせよ彼らが恋しくなるだろう。また、ほぼ毎朝散歩していた江津湖公園の緑と水の音、そして名前も知らないが、挨拶を交わしていた近隣の人々の顔も恋しくなるに違いない。



16年前からの友人達と（筆者は右から2人目）



## 学園大学で学んだこと

ダフィ リアム  
Duffy, Liam

【2015年9月～2016年8月  
カナダ・セント・メアリーズ大学からの交換留学生】

熊本学園大学に来る事ができて、ありがたいことだと思っています。

留学するのに熊本はちょうどいい大きさだと思います。

都会より本物の日本文化を経験することが出来、同時に世界中からの留学生に会えるのです。

そして日本人の友達には信じてもらえませんが、カナダ人の立場からみると、熊本はけっこう賑やかなところですよ。

学園大学の少人数のゼミのおかげでたくさん学びました。

旅行や体験学習があつて、皆さんと仲良くなって、ものすごく良かったと思います。みんなは、フレンドリーに私と話してくれて嬉しかったです。さらに私の日本語の語彙が足りないため、政治や他の重い話題についての話を我慢していただいてありがとうございます。

海外のアジア研究の授業では、日本文化の「わ」という概念がよく分析されています。

この集団意識の概念に関しては、良い点と弱点もありますが、地震の際には良い点しか見えませんでした。

苦しい時にも皆の優しさや忍耐力を見てすごく感動しました。

学園大と国際交流会館でのボランティアを通して、大切な事がはっきり見えるようになり、今まで経験したことのない目的意識をはっきりと感じています。このような仕事をできれば良いと思っています。

日本のことを深く理解し、自分なりの考え方を持つ事もでき、この一年間はとても幸せで大変勉強になりました。心より御礼申し上げます。



花火大会の前に友人が甚平を買ってきた（筆者は左端）

## 私の特別な熊本経験

ジョンソン デイオン  
Johnson, Dyonnen

【2015年9月～2016年8月  
イギリス・セントラル・ランカシャー大学からの交換留学生】

去年九月から今年八月まで、熊本学園大学に留学しました。その間に様々な事を経験しました。着いたばかりの時、私はすごくびっくりしました。イギリスと比べて、日本の文化は全然違うと思いました。しかし、熊本学園大学の国際教育課の先生たちのおかげで、私はすぐに安心できましたし、日本での生活に慣れることができました。とても感謝しています。

一年間は熊本学園大学の国際交流会館が私の大事な家になりました。そこで、色々な国の優しく、面白くて、良い人たちに会いました。学校と寮では永遠の友達を作りました。その友達に会えた事は非常に良かったです。KGUの友達と先生方は私の大事な家族になりました。

熊本での留学で、私の日本語は本当に上手になって、来る前は私は漢字を覚えるのは苦手でしたが、KGUで漢字の勉強するのが好きになり、一所懸命頑張りました。数ヶ月後には自信がドンドンついてき

て、自分の日本語力を試すために、日本語能力試験を受けました。そして日本語能力試験のN3に合格しました。信じられなかった！

熊本にいる間、私はとても成長しました。例えば、毎日美しい景色を見て、歓迎パーティーでKGUの留学生代表になったり、成人式に参加し、テレビや新聞に出たり、色々な所に冒険したり、地震を経験したり、日本の文化を体験するイベントに行ったり、英語の先生になったりしました。皆様にとっても感謝しています。



夏には、友達と上通りの浴衣祭りに参加しました。とても楽しくて、良い日でした。

## 友達が待っている！

フィリップス ケンシー  
Phillips, Kensey

【2015年9月～2016年8月】

カナダ・セント・メアリーズ大学からの交換留学生】

私は去年の九月から今年の八月まで熊本学園大学に留学しました。その間、熊本で初めて一人暮らしをしました。でも、本当に全然一人じゃなかった！国際交流会館のスタッフやほかの留学生がサポートしてくれました。国際交流会館でチームワークの大事さを学びました。サークルに入り、学校にもたくさんの友達ができました。熊本学園大学には色々なサークルがありますが、私はモダンフォーク同好会に入りました。そのサークルで活動することで、日本語が上達しました。サークル活動は日本に住んでいた時の一番いい経験で、今でもサークルの友達とよく連絡しています。サークルで学んだことは、遠距離友情は不可能じゃないということです。

熊本学園大学の授業もとっても良かったです。一番好きだったのは日本語の授業でした。先生達

は厳しいけど、とっても優しく、私は、たったの一年間で日本語能力試験のN3に合格できました。熊本留学中に、大変な地震が起きましたが、地震のおかげで熊本の人たちの優しさに気づくことができました。彼らのおかげで、帰国せずに留学生生活を最後まで終えることができました。地震で学んだことは、何があっても明日はきつとくる。

最後に、熊本で一番学んだことはどこへ行っても、友達が待っている！



モダンフォーク同好会新入生演奏会の後に  
(筆者は前列左から5人目)

## KGU – 国際的な大学、幸せな家族

サピانو ジュリアン  
Sapiano, Julian

【2016年4月～2016年8月】

オーストラリア・ラトロープ大学からの交換留学生】

私は3月から、8月まで熊本学園大学に留学しました。短かったですが、とても楽しく、素晴らしい経験でした。最初私は、日本語が全然喋れませんでした。熊本学園大学でたくさん学びました。学園大の先生は本当に優しく、よく手助けしてくれました。ありがとうございました！

授業で日本文化も習いました。例えば、一緒に和菓子を作りました。私の作った和菓子は少し下手でしたが、美味しかったです！そして、水俣病について学び、実際に水俣へ行きました。水俣も水俣に住んでいる人も美しいと思いました。また、神社では火の上を歩いたこともあります。痛かったです！

日本語を勉強するのに、学園大の生活は最高だったと思います。留学生の寮は便利で、他の留学生ともすぐ友達になりました。もちろん、日本人とも友達になりました。皆さん優しくかったです。寮の友達と日本人の友達と一緒にご飯を食べたり、

映画を見たり、色々な所に遊びに行きました。

6ヶ月暮らして、熊本は私にとって特別な場所となりました。日本文化の中でも、熊本の文化を学べたことは、良かったです。今度、一緒に馬刺しと辛子蓮根を食べるばい！



寮で遊んでいました。私は前列の左にいます。



## 私と方言

グエン バオリ  
Nguyen Bao Ly

[2016年4月～2017年3月  
ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校からの交換留学生]

2016年3月、私の熊本学園大学での留学生活は始まりました。何もかも初めてでした。今、自分がどれほど成長したのかを振り返ってみるとありがたい気持ちになります。留学体験を通して学んだのは人間形成でした。

海外での一人暮らしはもちろん簡単ではありません。最初私は日本語も英語も上手くできなかったし、問題も多くてひきこもりみたいな状況でした。でも、熊本学園大学の優しいスタッフ、先生、友達のおかげで「やればできる!」と思えるようになりました。自信のなかった私は剣道部に入って毎週練習しました。そして、寮の近くのコンビニでアルバイトもしました。最近国際教育課の大澤さんから英語の家庭教師のアルバイトも紹介してもらいました。毎日楽しく過ごせて良かったと思います。学園大で体育祭、ゼミ旅行といった色々

な面白い活動が行われているので、いい友達もできたり、忘れられない思い出をたくさん作りました。

皆さん、学園大で自分を試してみてください。まだ若いのですから!!



体育祭ではリレーと障害物競争を楽しみました。  
(筆者は左)

## 楽しい留学生活

ソウ ア ニ  
莊 亞 寛

[2015年9月～2016年8月  
台湾・崑山科技大学からの交換留学生]

去年九月から今年八月までちょうど一年間、熊本学園大学に留学していたソウアニです。熊本は今回が二回目でした。初めて来たのは二年前でインターンシップ生として来ました。そのときは四年生になって、自分が日本に留学できるなんて考えたことはありませんでした。今思い返せば日本でのこの一年間は本当に良かったです。楽しかった事も、悲しかった事も忘れたくないです。経験したことは全部、宝物のように大切にしたいと思います。日本に来たばかりの頃の私は自信を持って、知らない人と日本語で喋ることがとても怖くて、恥ずかしかったです。

日本に来て、不安な気持ちは少しはあったけれど、同じ寮に住む留学生達は家族のように優しくしてくれて、心も温まり、寂しくはなかったです。特に地震があった時、国際教育課の先生方も、日本人の友達も、留学生のみんなも、お互いに支え合って、最悪な状態を乗り越え、涙が出るほど

れしく、感謝の言葉しかありません。

この一年間、熊本の景色に触れるたびに、自然と人々の美しさと優しさが身にしみてよく分かるだけでなく、文化を体験することを通して、現地の慣習や経済を知り、お互いに交流をして、本当にすばらしい事だったと思います。私はやはり日本が大好きで、これから何度も皆に会いに来たいです。帰国する日までに、沢山いい思い出を作ることができてよかったです。また知り合った皆さんと一緒に何かしたいけれど、「光陰矢の如し」、出会いがあれば別れもありますね。また会える日まで、お互い頑張りましょう!



仲間達と玉名花火大会にて  
(筆者は中央奥でクマモンのうちわを持つ人)

## 私と熊本

キム ドン ジュ  
金 東 周

【2016年4月～2017年3月

韓国・大田大学校からの交換留学生】

私は今年の3月24日に熊本にきました。初めて見た熊本の景色はとても静かな印象でした。私が住んでいる韓国は夜になってもうるさくて人が多いので熊本に来て驚きました。熊本に来てから数日は風景を眺めていたことを思い出します。今でも熊本の風景は素晴らしいと思います。しかし、熊本で4月14、16日に大きい地震が起きました。その時は本当に大変でしたが、今、考えてみるとすごく大事な経験になりました。その経験を通じて多くの国の友達と仲良くなりました。そして地震が起きた後、近所のヒロセに行きましたがあんなに大きな地震が起きたのに熊本の人たちは列に並んで買い物をしていました。皆、自分の家族も大変なのにそのようにしているのを見て素敵な人たちだと思いました。

また、この1年の間授業で様々なところに行く

ことができました。熊本の通町筋にある美術館、和菓子を作る場所、水俣、玉名など熊本のあちこちを回りました。まだ行ってないところも多いのですが、今まで行ったところは全部面白くて素晴らしい場所でした。

私はもうすぐ留学を終え韓国に帰ります。しかし韓国に帰っても熊本で見たり触れたりした経験を大事にして生きていこうと思います。私は熊本に来て良かったと思います。

熊本が大好きです。いつか必ずここをまた訪れるのを楽しみにしています。



ゆかたまつりにて  
(筆者は右端)

## 私の熊本での一年間

キン ショウ  
金 剗

【2016年4月～2017年3月

中国・北京第二外国語学院からの交換留学生】

クマガクでは知識を学んだだけでなく、色々なことを体験し、友達もたくさん作りました。この一年の間に、茶道を体験したり、長崎や水俣や球磨村へ見学に行ったり、和菓子を作ったりもしました。知らず知らずのうちに日本文化についてもたくさん勉強しました。寮の皆さんも仲良くて一緒にご飯を作ったり、勉強したり、パーティーをしたりして、家族みたいな感じだと思いました。最初熊本に来たときはちょっとホームシックにかかりました。でも、寮の雰囲気がとてもよくて、みんな優しくしてくれて、すぐに慣れました。いや、慣れるというより、好きになりました。実は、来たばかりのとき熊本で大きな地震があり、地震を体験したことのない私にとっては、非常に怖いこ

とであるはずなのに、なぜかそんなに怖くなかったのです。なぜかという、そのとき、寮のみんなと一緒にいたから、そして国際教育課の方々も手伝ってくれたからです。なんとなく「私たちはきっと安全だ」という自信がありました。熊本に来て本当に本当に良かったと思います。クマガクと一緒に春夏秋冬を過ごしたことは、一生涯忘れられないことだと思います。



弁論大会・筆者は前列左端



## 行動することの大切さ

みうら こうへい  
外国語学部英米学科4年 三浦 康平

【2015年8月～2016年5月  
アメリカ・モンタナ州立大学へ交換留学】

私は、アメリカのモンタナ州ボーズマンのモンタナ州立大学で10か月間過ごしました。帰国して数か月過ぎた今、そのころを振り返ると、さまざまな人と出会い、さまざまな事を学び、さまざまなところへ行き、たくさんのことを経験した忘れることのできない素晴らしい思い出が鮮明に蘇ります。留学をする理由は人それぞれにあると思います。「英語力を伸ばしたい」、「自分を変えたい」、「外国人の友人をつくりたい」などそれぞれです。そういった自分自身の目標を達成するためにとても大切なことがあります。それはどんなに小さなことでも目の前にあるすべての事にチャレンジし、自分の経験値を高めていくことです。

1年間の留学では自分自身にチャレンジするシチュエーションが数えきれないほどあります。たとえば、授業中、発言するかしないか、友人に誘われたホームパーティーに行くか行かないか、フットサルメンバーになるかならないか。一つ一つ見ればとても小さい事かもしれませんが、しかし、英語を流暢に話せない当時の自分にとってはとても大きい壁でした。けれども、

目の前にある、すべての事にチャレンジし、参加したことで予想だにできなかった宝物を得ることができました。ホームパーティーに行ったことで、人脈が広がる事が出来たこと、フットサルメンバーになったことでトーナメント準優勝に輝き素晴らしい思い出を作ったこと、私が1年間でやったすべてが私の経験値を上げ、その経験値が私自身をさらに成長させてくれます。

私は経験だけが自分自身を成長させる唯一の手段だと思います。それは留学経験だけの話ではなく、どこでも言えることです。これからも自分自身を成長させるためにたくさんの事を経験し、行動していこうと心の底から思います。



日本へ帰国する際ボーズマンの空港にて（筆者は中央下）

## 困難の中での成長

うえむら みか  
外国語学部英米学科4年 上村 望歌

【2015年9月～2016年5月  
イギリス・セントラル・ランカシャー大学へ交換留学】

イギリスに行く前に想像していたことは、どれも想像通りにはいきませんでした。初めて食べた料理は全く味がなく、レストランに行ってもなかなか自分の気に入る食べ物を見つけることができませんでした。家のトイレはよく詰まったので、そのたびに早く起きて、学校で用を足しに行っていました。トイレを修理する人を呼びましたが、その人の英語がとてもなまっていて、全く聞き取れず悔しい思いをしたこともあります。

想像以上に理想とのギャップがあり、自分自身が嫌になることもしょっちゅうありました。しかし、

そのすべてはどれもこの交換留学で暮らしてみないと分からないことだったと思います。例えば、レストランでの店員との会話や、トイレが詰まったときの説明の仕方など、日本で生活しているときには知らなかった英語のフレーズや単語、イギリス特有の言い方など、多くの英語に出会い、かつそれを使用する機会が毎日ありました。

留学へ行く前は、留学先の生活への理想や、自分への期待があると思います。しかし、実際には、理想とのギャップや、自分自身が嫌になってしまうことも同じくらいあります。その時に、どのように自分が行動し、解決するのかということが、自分の自信へと繋がると同時に、大きく成長できる機会となります。日本とは全く異なる言葉や文化の中で、生活するという事はたくさんの困難が必ずあります。でも「その困難こそが自分を成長させる重要なポイントであった」と、この留学を通して私は感じています。



uclanで催された colour runのイベントの際に（筆者は前列左端）



学校のセメスター終わりにあるボールパーティにて（筆者は右端）

## 留学での新たな発見と学び

外国語学部東アジア学科 5年 **しま かずみ**  
**島 一実**

[2015年3月～2016年2月]

中国・深圳大学へ交換留学]

私は約一年間、中国の広東省にある深圳大学に留学をしていました。留学しようと思ったきっかけは大学2年生の時経験した1か月間の中国海外研修でした。当時、中国語がうまく話せず悔しい思いをし、リベンジしたい!という思いから留学を決意しました。

この留学を通じて学んだことは語学力だけではありません。特に一番大きかったものが「視野の広さ」を得たことです。これは留学先で出会った大切な友人達のおかげだと思います。中国人を含め、多国籍の友人達との交流をしました。文化や性格、価値観の違いに驚き、時にはそれに悩むことさえありました。しかし、この交流から多様性を理解し、それぞれの文化の違い



広州の大学でクラスメイトと講演会を見に行った際に

を肯定的にとらえ、広い視野で物事を見ることの大切さを学びました。

また、中国語を上達させるには「積極的な姿勢」がいかに大事かということも改めて気づかされました。留学当初は失敗することに不安を感じ、消極的でした。しかし、ある時クラスメイトに「間違っているけど、積極的に話すことが大事」と言われました。確かにその子は積極的に発言していたので誰よりも会話が上達しているように感じました。この影響を受け、私はそれ以降、間違いを恐れず積極的に発言をし、いろんな人とコミュニケーションをとるようになりました。積極的な姿勢を心掛けた結果、語学の向上と自信につながっていきました。これからもこの姿勢を忘れず、何ごとにも挑戦していきたいです。中国留学は私に多くの刺激を与え、成長させてくれました。本当に留学してよかったと思います。留学生活で得た素晴らしい体験や嫌な経験も踏まえ、これからの生活に活かしていきたいです。



中国人の友達との桂林旅行（筆者は一番前）

## 新しいことに飛び込んで自分を知る

経済学部国際経済学科 4年 **ごとう ちあき**  
**後藤 千晶**

[2015年2月～2015年6月]

ニュージーランド・ユニテック工科大学へ短期交換留学]

私はニュージーランドのユニテック工科大学に留学しました。一度も海外に出たことがなかった私は留学が決定的から出発まで、憧れの生活ができることに期待に胸を弾ませていました。しかし、留学生活が始まってみると、簡単な英会話もできない、



クラスの友人と郊外に旅行に行った時の一枚（筆者は前列左端）

知り合いもいないから遊ぶ友達もいない、憧れの生活とのギャップに落ち込みました。しかし、受動的な自分のままではやっと叶った留学生活を楽しむことができないと気づき、自分の置かれた環境を楽しもうと前を見るようになってからさまざまな出会いがありました。

私は、語学学校に通っていたので、ネイティブの学生と交流する機会がなかったのですが、派遣先大学の日本語の授業のアシスタントをさせてもらったり、自分で調べて、他大学の日本文化サークルに参加し現地の学生と交流したりと、積極的に新しいことに飛び込んで行きました。留学先でなにか新しいことをする時は、1人で決断して1人で行動しなければなりません。自分の無知、語学力の未熟さを知り、落ち込んだりしたこともありましたが、一步を踏み出すことで得られた素敵な出会いや思い出は、かけがえのない財産と自信になりました。

留学をして広い世界を見に行っただけでいいのですが、環境は変わっても、自分が行動しなければ、毎日を楽しめない、何も学べない、すべては自分次第なのだ痛感しました。半年間という短い留学生活でしたが自分が行動した分だけ濃い時間を過ごすことができました。



## 新しいことへの挑戦

外国語学部東アジア学科 5年 <sup>いどがわ あかね</sup> 井戸川 茜

【2015年3月～2016年2月

韓国・大田大学校へ交換留学】

韓国の大田広域市にある大田大学校で約1年間留学しました。三度の試験を経て、やっと掴んだ留学。韓国での生活は楽しいことはもちろん、苦しいことも沢山ありましたが、素敵な思い出が沢山詰まった、本当に夢のような1年間でした。

留学中、私が大切にしていたことは、普段自分が選択しないことに挑戦してみるということです。留学から帰ってきて「あのときMTに行っておいてよかった」と何度も思います。というのも、人見知り



貴重な93年生まれの友人たち！  
(筆者は左から4人目)

と語学力に自信がなかったため、自分から話しかけて仲良くなるということが本当に難しかったです。韓国ではMTといって、新学期になると学科別に宿泊学習のようなものが行われ、そこで先輩後輩の親睦を深めま

す。留学して1か月も経たない状況、さらに知らない人たちと同じ班というものの嫌で不参加の予定でしたが、悩みに悩んだ結果、参加することにしました。気が重い初日。いざ参加してみると悩んでいた自分が馬鹿みたいに思えるくらいとても楽しく過ごせ、収穫だらけでした。MTから始まり、様々なことに参加しようと心掛けるようになってからというもの、新しい出会いの連続でした。今考えると、参加したからこそ顔を覚えてもらい、沢山声を掛けていただき、そのおかげで貴重な経験ができたこともあります。そのときの繋がりがあからこそ、今も連絡をし合う友人とも出会えました。

一歩踏み出すということは本当に勇気のいることです。しかし、その一歩で得られることはとても大きいです。今、少しでも留学を考えていたり、興味を持ったりしていたら、是非挑戦してみてください。その一歩は必ず、あなたの力になります。



修了式にて似ていると言われていた中国人の友達と  
(筆者は右側)

## 北京での出会いから学んだこと

外国語学部東アジア学科 4年 <sup>さかもと ともこ</sup> 坂本 智子

【2016年3月～2017年2月

中国・北京第二外国語学院へ交換留学】

留学も残り2カ月ほどになりました。出発する直前に不安になり、空港で泣いてしまったのが懐かしいです。留学で私は成長できました。北京にいる日本人学生は皆自信に溢れていて、彼らとの出会いが私を変えてくれました。友達と遊んだりお酒を飲んだり日本の学生と同じように過ごしています。北京の日本人大学生は社会人との交流を大事にし、大学ではしっかり勉強をします。話していると熱くなり日中関係について話すこともありました。

私は多くの人と出会い見聞を広めるために“JGS北京支部”に所属しました。東京に本部を持ち、留学を考えている学生にSNS上で情報を発信する学生団体です。“JGS”の活動を通して、中国にバックグラウンドがある学生、日中友好の懸け橋になるために勉強している学生たちに出会いました。

今まで出会ったことのない学生ばかりで、常に刺激を受けていました。留学先で日本人と交流するのは時間の無駄と考える人もいますが、環境が変わるからこそ多くの出会いがあり、学ぶことがあります。私は彼らと出会い、全て曖昧で自信が無いところが自分の一番の弱みだと気づき、変わりたいと思いました。だから少し勇気を持ち一歩前に踏み出すことを心掛けました。経験を積むことで自然と自信がついてくることに気がきました。留学では自分の実力不足を痛感することが多かったですが、留学をして良かったと心から思います。北京で学んだこと、出会えた縁はこれからも私の大切な宝物です。



JGS北京支部メンバーと (筆者は前列中央)



## 自分から行動することの大切さ

外国語学部英米学科 4年 やましる ゆか  
**山城 結花**

【2015年2月～2015年6月】

オーストラリア・ラトロープ大学へ短期交換留学】



仲の良い友達が私のお別れ会を開いてくれたときの一枚  
(筆者は左から3人目)

私は半年間、オーストラリアのメルボルンにあるラトロープ大学へ留学しました。日本とは違う文化に触れてみたい、自分の英語力をもっと高めたいという思いもあり、また入学前から憧れていた海外留学が実現するという嬉しさに胸がいっぱいでした。

私が留学して学んだこと、それは自分から行動を起こすということがどれだけ大切なのかということです。メルボルンでの生活が始まり、自分が思っていた以上に上手くコミュニケーションが取れないということにとってもショックを受けました。毎日ホス

トファミリーと晩御飯を一緒に食べても、授業に真面目に出席しても、そして出された課題をどんなにこなしても、まったく進歩がありませんでした。友達も日本人としか仲良くなれず、「私は一体何をしに来たのだろう」と落ち込んでいました。

何か行動しなければもったいない、そこで私はまず日本人と行動することを控えるようにしました。クラスメイトとお昼ご飯を一緒に食べるようにし、また休日も遊ばないかと自分から積極的に声をかけるようにしました。そうしたことで様々な国の友達を作ることができ、たくさんの国の文化にも触れることができました。四六時中英語を喋っていたので、英語力も以前とは比べ物にならないくらい上達しました。5、6カ月が経った頃は、むしろ日本人と遊ぶことの方が少なくなっていました。留学をして「言われたことをただやる自分」から、「何か一步を踏み出すことが出来る自分」へ変わることが出来ました。この経験を忘れず、これからも自分から積極的にアクションを起こしていきたいです。



課外授業でメルボルンシティを探検したあとに(筆者は左から2人目)

## 留学生と暮らして

外国語学部東アジア学科 4年 たなべ みさき  
**田辺 実咲**

【2016年3月～2017年2月】

熊本学園大学国際交流会館入居】

私は2016年の春から、国際交流会館に入居しています。私が入居を決めたのは、留学生と住めるなんてなんて楽しそうだろう！留学生と一緒に生活することで、お互いの文化、言語を学び合ったり、きっと何か得られるものがあると思ったからです。また、私は現在、東アジア学科の4年生で、卒業の前に、もっと国際交流への理解を深めたいと思ったことも理由

の1つです。

会館での生活は、留学生の日本での生活をサポートしながら、ときにお互いに言語を教え合うこともありました。また、誰かの誕生日には皆で集まってパーティーを開くこともあり、それは私にとって一番楽しい時間でした。特別な日でなくても、ベトナム料理や韓国料理など、自分の国の料理をふるまってくれたり、一緒に料理をしたり、とても楽しく過ごしました。留学生は皆勉強熱心で、私もその姿にたくさん刺激をもらっています。皆仲が良く、一緒にいる時間が増えるうちに、今では家族のようにあたたかい居場所になりました。会館には欧米圏、アジア圏からの留学生が30人程いますが、このような経験はこの先きっとないと思いますし、やはり入居してよかったと心から思っています。



寮の部屋で楽しんでいるときの写真(筆者は一番前)



手作りカレー・パーティー



## UNGL リーダーシップ・チャレンジ in サイパン

UNGL リーダーシップ・チャレンジ in サイパンに参加して  
～これからこの研修に参加を考えている学生へ

経済学部経済学科3年 ぬまた こうすけ 沼田 康佑

私は以前から外国の文化に興味があり、この研修に参加しました。しかし英語はあまり得意ではありません。実際、最初は生徒やホストファミリーとうまくコミュニケーションをとることができませんでした。そこで、会話するときにジェスチャーを使うようにすることや、分からない英単語や表現が出てきたら紙に書いて分かるようにすることなどを意識して行いました。こうした真剣に伝える姿勢を常に意識することができれば、どんな状況にも対応していくことができます。参加すれば多くのことを学び取ることができますし、国際教育課のサポートもありますので安心して参加できると思います。

## UNGL リーダーシップ・チャレンジ in 韓国

外国語学部東アジア学科1年 おかむら しおり 岡村 菜里

このプログラムに参加して、目的意識を持って参加している学生との交流を通じ、リーダーシップについて考え直すきっかけを得ることができました。出発前の事前研修では、厳しいアドバイスをもらうなどプレゼン作成には苦労しました。実際に韓国に行き、自分の認識の甘さをととも感じることができました。自分自身の良い点、改善点も知ることができ、新たな発見がありました。



外国語学部東アジア学科1年 さくらい みく 櫻井 美紅

今回のプログラムに参加して、いろいろな人と触れ合えたことで、価値観や考え方の違いに良い刺激を受けることができました。私はもともと人の意見に耳を傾けるのも自分の意見を周りから否定されるのも嫌で、自分の意見を言うことを避けていました。このプログラムを通じて、自分の意見を言うことの大切さを学びました。間違えてもいいから自分の意見を言うように意識していくうちに、徐々に自信を持てるようになりました。研修で得たものはとても多く、今後の学生生活に生かしていきたいと思っています。

## 引率記

国際教育課 おおさわ たかし 大澤 孝

10月7日(金)～10月11日(火)の日程で「リーダーシップ・チャレンジ in 韓国」研修に引率として参加しました。仁川空港集合解散というプログラムで、集合後すぐから解散直前までセミナー、フィールドワーク、グループディスカッションが組み込まれ、時には夕食が21時過ぎからということもありました。本学から参加した学生2名も他大学からの学生に大いに刺激を受けていた様子で、最終日の振り返りリフレクションでは感動や反省等の色々な感情が入り混じり涙を流していました。これは本学の学生だけではなく、多くの学生も同様でした。それだけやりがいのあるプログラムだと思いました。引率者にとっても学生と同じ学生寮に泊まるなどなかなか大変ではありましたが貴重な体験ができたと思います。



## 平成 28 (2016) 年 海外往来

	派遣	受入
1月	■派遣交換留学生の帰国 (韓国・大田大学校 [2名]、中国・深圳大学 [2名]、北京第二外国語学院 [1名]、北京外国語大学 [1名]、ニュージーランド・ユニテック工科大学 [1名])	■JENESYS2015 韓国青年訪問団来学 (1/19)
2月	■派遣交換留学生の帰国 (ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]) ■派遣交換留学生の出発 (豪・ラトロープ大学 [2名])	■受入れ交換留学生の帰国 (韓国・大田大学校 [6名]、中国・深圳大学 [2名]、北京第二外国語学院 [1名]、広西大学行健文理学院 [13名]) ■受入れ交換教員の帰国 (大田大学校・関丙勲先生 (2/22)、深圳大学・黄秋生先生 (2/26))
3月	■派遣交換留学生の出発 (韓国・大田大学校 [4名]、中国・北京第二外国語学院 [1名]) ■UNGL リーダーシップチャレンジinサイパン派遣 [1名]	■受入れ交換教員の来熊 (大田大学校から李義澤先生 (3/14)) ■受入れ交換留学生の帰国 (ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]、中国・広西大学行健文理学院 [1名]) ■受入れ交換留学生の来熊 (韓国・大田大学校 [6名]、中国・深圳大学 [1名]、北京第二外国語学院 [1名]、ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]、豪・ラトロープ大学 [1名])
4月	■派遣交換留学生の帰国 (カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名]) ■学部派遣交換留学生の出発 (ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]) ■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ出発 (カナダ・ビクトリア大学 [学生9名] (1学期間))	
5月	■派遣交換留学生の帰国 (米・モンタナ州立大学 [1名]、インカーネットワード大学 [1名]、カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名])	■豪・ラトロープ大学国際交流担当者来学 (5/19) ■韓国・大田大学校副総長一行来学 (5/20)
6月	■派遣交換留学生の帰国 (米・モンタナ州立大学 [2名]、英・セントラル・ランカシャー大学 [2名])	■米・キャロル大学から訪問者来学 (6/24)
7月	■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習 (ニュージーランド・クライストチャーチ工科大学) [2名] (2週間) ■派遣交換留学生の帰国 (台湾・崑山科技大学 [1名]) ■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ帰国 (7月～9月) (カナダ・ビクトリア大学 [学生9名])	
8月	■派遣交換留学生・短期交換留学生の出発 (米・モンタナ州立大学 [1名]、インカーネットワード大学 [1名]、ウイスコンシン大学オークレア校 [1名]、カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名])	■台湾・崑山科技大学訪問団来学 [学生3名、引率1名] (8/2) ■受入れ交換留学生の帰国 (カナダ・セント・メアリーズ大学 [2名]、英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]、豪・ラトロープ大学 [1名] 台湾・崑山科技大学 [1名]、ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名])
9月	■派遣交換留学生の出発 (英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]、台湾・崑山科技大学 [1名]、ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]) ■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ出発 (カナダ・ビクトリア大学 [学生9名] (1学期間)) ■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習 (韓国・大田大学校 [学生6名]) (2週間)	■受入れ交換留学生の来熊 (カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名]、英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]、台湾・崑山科技大学 [2名]、中国・広西大学行健文理学院 [13名])
10月	■UNGL リーダーシップチャレンジin韓国派遣 [2名]	
11月		■英・セントラル・ランカシャー大学日本語学科長来学 (11/16) ■中国・北京物資学院副学長一行来学 (11/18)
12月	■派遣交換留学生の帰国 (米・ウイスコンシン大学オークレア校 [1名]、豪・ラトロープ大学 [1名]) ■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ帰国 (12月～2月) (カナダ・ビクトリア大学 [9名])	■豪・ラトロープ大学国際交流担当副学長来学 (12/7) ■JENESYS2016 太平洋島嶼国大学生訪問団来学 (12/9) ■韓国・順天郷大学新聞放送学科学生研修団来学 (12/12)



## 平成 28(2016) 年度 研修団往来

受 入	研修団名	研修期間	期間	団員数
	大田大学校グローバル融合創意学部研修団	2月17日(水)	1日間	学生8名、引率3名
	大田大学校防災研修団	8月25日(木)	1日間	学生36名、引率12名
	順天郷大学校学生訪問団	12月16日(金)～12月17日(土)	2日間	学生25名、引率3名、通訳2名

派 遣	研修団名	研修期間	期間	研修・派遣先	学生数
	外国語学部東ア(韓国)海外研修	7月28日(木)～8月20日(土)	24日間	韓国・梨花女子大学校	30
	外国語学部英米海外研修	8月3日(水)～8月25日(木)	23日間	USA・ベセル大学	17
	外国語学部東ア(台湾)海外研修	8月7日(日)～8月28日(日)	22日間	台湾・國立台湾師範大學	3
	経済学部 INTERNATIONAL INTERNSHIP	8月23日(火)～9月6日(火)	15日間	カンボジア	9
	学生自治会代表団	8月24日(水)～8月26日(木)	3日間	韓国・大田大学校	6
	経済学部国際研修	9月6日(火)～9月18日(日)	13日間	USA・ニューヨーク・ボストン	18
	韓国訪問学生研修団	9月19日(月)～9月22日(木)	4日間	韓国・順天郷大学校	6
	サマープログラム	2017年2月4日(土)～2月26日(日)	23日間	NZ・ユニテック工科大学	22

## &lt; 海外への派遣学生数 &gt;

	派遣先大学名	平成 28 (2016) 年度			平成 27 (2015) 年度まで				
		交換	短期交換	サマーP*2	交換	短期交換	サマーP*2	HSP*1	短期派遣
アメリカ	モンタナ州立大学	1			71				25
	モンタナ大学				21				
	キャロル大学				29				22
	ロッキーマウンテン大学								4
	インカーネットワード大学	1			32				
	アワーレディオブザレイク大学(熊本市交流事業)				7				
カナダ	ウィスコンシン大学オークレア校		1		10	6			
	セント・メアリーズ大学	1			29	2			
イギリス	カールトン大学				10				
	リバプールジョンモーズ大学				41	11			91
	アルスター大学				8				19
フランス	セントラル・ランカシャー大学	1			5		54		
	リヨン商科大学				2				
ドイツ	ボワチエ大学				1				
オーストラリア	ラインランド・プファルツ州立経済大学								16
ニュージーランド	ラトロープ大学	2			29	4		124	
	ユニテック工科大学			25	27	8		103	14
韓国	クライストチャーチポリテクニク工科大学				1				
	大田大学校	4			81				
中国語圏	深圳大学	0			55				
	中国人民大学				8				
	北京外国語大学				12				
	北京語言大学				11				
	北京第二外国語学院	1			10				
	広西師範大学(熊本市交流事業)				9				
ベトナム	崑山科技大學	1			2				
タイ	ベトナム国家大学ハノイ校	1			8				
	チュラロンコン大学				4				
	合計	13	1	25	523	31	54	227	191

※ 網掛けの協定校は、現在交流を行っていない大学  
 ※ 短期派遣留学(2ヶ月派遣)は、平成18年度をもって終了  
 ※ 短期交換留学(1学期派遣)は、平成20年度開始  
 ※ 短期語学ホームステイプログラムは、平成24年度の実施なし  
 ※ サマープログラム(1ヶ月派遣)は、平成25年度開始

\*1: 短期語学ホームステイプログラム  
 \*2: サマープログラム



## 平成 28(2016) 年度 出身国・地域別外国人留学生数

### 春学期

(5月1日現在)

国 籍 (国・地域名)	学 部 学 生					研 究 生			大 学 院 生					交 換 留 学 生	合 計	
	1	2	3	4 以上	計	学部	院	計	1	修 2 以上	博 1	博 2	博 3 以上			計
中 国	2	1	6	8	17					3	2			5	2	24
韓 国	1				1								1	1	6	8
台 湾															1	1
ベトナム															1	1
オースト ラリア															1	1
カナダ															2	2
イギリス															1	1
ドイ ツ															1	1
合 計	3	1	6	8	18	0	0	0	0	3	2	0	1	6	15	39

【8カ国・地域 39名】

### 秋学期

(10月1日現在)

国 籍 (国・地域名)	学 部 学 生					研 究 生			大 学 院 生					交 換 留 学 生	合 計	
	1	2	3	4 以上	計	学部	院	計	1	修 2 以上	博 1	博 2	博 3 以上			計
中 国	2	1	6	8	17	1		1		3	2			5	15	38
韓 国	1				1								1	1	6	8
台 湾															2	2
ベトナム															1	1
カナダ															1	1
イギリス															1	1
合 計	3	1	6	8	18	1	0	1	0	3	2	0	1	6	26	51

【6カ国・地域 51名】

- ※ 「留学」の在留資格を持っている学生のみ。
- ※ 休学者も含む。



# Ekiden



# Emergency Orientation



# Welcome Party



# PHOTO GALLERY

Coming-of-Age Day



KGU Sports Day



Speech Contest

第26回外国人留学生弁論大会



Bus Trip





## 平成28(2016)年3月から平成29(2017)年3月までの留学生参加行事

名 称	主 催	内 容	期 日
防災基礎情報セミナー	熊本市国際交流会館	外国人留学生向け災害時対応の講話	平成28年 3月19日(土)
熊本YWCAリサイクルバザー	熊本YWCA	外国人留学生向けのリサイクルバザー	5月 7日(土)
第29回熊本グループ留学生交流会	熊本東南ローターアクトクラブ	そば打ち体験や謎解きゲームを通しての交流会	6月 5日(日)
新入生歓迎ピクニック	熊本学園大学学生自治会	三井グリーンランドで新入生歓迎交流会	6月18日(土)
交換留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新入交換留学生の歓迎会	6月11日(土)
第4回 外国人被災者のための生活相談会	熊本市国際交流振興事業団	り災証明の取り方や行政への相談方法・震災後のこころの相談	6月12日(日)
ウェルカムパーティー	熊本留学生交流推進会議	新入留学生との交流会	7月 2日(土)
第12回 城下町くまもと ゆかた祭り	日本現代和装研究会	留学生向け浴衣着付け体験	7月30日(土) 7月31日(日)
第39回 火の国祭り おてもやん総踊り	大学コンソーシアム熊本	コンソ熊本・留学生チームとして参加	8月 6日(土)
第26回 外国人留学生弁論大会	熊本学園大学国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	7月23日(土)
第29回 JAPAN TENT 世界留学生交流・いしかわ 2016	JAPAN TENT 開催委員会事務局	石川県の伝統文化・工芸体験・地元ボランティア学生との交流	8月18日(木) ～8月24日(水)
交換留学生送別会	熊本学園大学国際教育課	帰国する交換留学生の送別会	8月11日(木)
交換留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新入交換留学生の歓迎会	10月 1日(土)
ウェルカムパーティー	熊本留学生交流推進会議	新入留学生との交流会	10月22日(土)
体育祭	熊本学園大学体育常任委員会	体育祭へ参加	10月29日(土)
秋の新入生歓迎バス旅行	熊本学園大学国際教育課	青井阿蘇神社・織月酒造・人吉城跡・人吉駅 ・人吉鉄道ミュージアム	11月 4日(金)
託麻祭	熊本学園大学第一部学生自治会	学園祭	11月 4日(金) ～11月 6日(日)
多文化共生留学生シンポジウム	熊本留学生交流推進会議	第一部：「留学生に聞いてみよう！ ～熊本地震で感じたこと～」をテーマに発表 第二部：餅つき	12月10日(土)
交換留学生送別会	熊本学園大学国際教育課	帰国する交換留学生の送別会	1月21日(土)
第35回 熊本春節祝賀会	熊本県日中協会	中国人留学生と協会の交流	2月14日(火)
留学生交流会&お花見会	大学コンソーシアム熊本	お花見を通しての留学生同士の交流	3月28日(火)





INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAMS COMMITTEE MEMBERS

国際交流委員会メンバー

(2016年4月～)

委員長     カーク・マスデン

商学部     香川 正俊           土井 文博

経済学部   朴 哲洙           吉川 勝正

外国語学部 小笠原 淳           クリスティ・プロヴェンザーノ

社会福祉学部 高木 享           陳 宇澄

大学院     小野 浩           出家 健治

国際教育課 喜佐田 智子       大澤 孝

OFFICE OF INTERNATIONAL EDUCATION STAFF

国際教育課スタッフ

(2016年4月～)

課長 喜佐田 智子

係長 大澤 孝

北原 かおり

高井 智代

古家 由美子

国際交流会館 前田 清明

熊本学園大学 国際交流レター 2016 vol.38  
編集・発行 熊本学園大学国際教育課

平成29(2017)年3月発行



熊本学園大学

KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

〒862-8680 熊本市中央区大江2丁目5番1号

TEL 096-364-5161(代)

FAX 096-372-4112

[ホームページ] <http://www.kumagaku.ac.jp/office/kokko>

[facebook] <https://www.facebook.com/kumagakukokko>